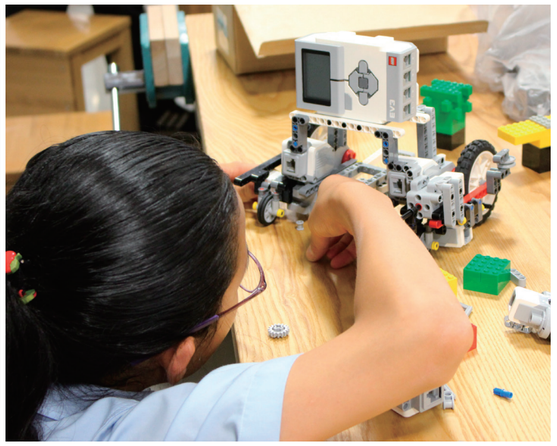
附属中開校により さらなる一歩を

真の「サイエンスエリート」を育成する学校として

2017年6月19日取材



2017年4月、横浜サイエンスフロンティア高校附属中が開校しました。tvk「進学ナビステーション」の取材にあわせて訪問し、附属中1期生の様子、進化する「横浜サイエンスフロンティア」について栗原校長・植松校長代理にお話を伺いました。

附属中1期生、YSFH流を謳歌！

横浜サイエンスフロンティアの地にはじめて中学生を迎えて2カ月あまり。附属中1期生の印象を「よい意味で驚いています」と話される栗原校長。附属中は高校と同じく1・2・4校時が50分、3・5校時は95分。中1生からすべての教科にDEEP学習（※1）を取り入れ、探究力を育てる授業が行われています。「サイエンスの学校なので、実験実習も含めて95分。教科を集中して深く学ぶ時間が必要です。中学生はついてこられるか…」という先生方の心配をよそに1期生は目を輝かせ、早くも侃侃諤諤（かんかんがくがく）、授業に参加しているそう。「すでに1期生には本校で学んでいる生徒なんだというプライドがある。まっすぐにこの学校で学びたい、やりたいことがあるんだという熱意を感じます」と笑顔の校長先生から1期生の好スタートぶりが伺えます。

YSFHの核を育てる附属中を創る

課題研究が教育活動の中心となるYSFH。附属中にもSS（サイエンススタディーズ）、FT（フロンティアタイム）という独自の時間を設置し、課題研究の基礎基本を学んでいます。自分の興味関心から研究テーマを設定する力、主体的に自分の課題に取り組む力、人に伝える・伝わる「言葉」「プレゼンテーション」の力。中学生のうちに獲得してほしい力が附属中のカリキュラムに反映されているとのこと。また、高校生からの「自分が中学生だった頃、YSFHのような深い学びがしたかった」という声も附属中づくりに生かされているそうです。

校長先生は附属中生に期待とエールを込めて「中学生にとって難しいこともありますが、ここでサイエンスの学習の基礎を固めて高校生になれば、相当に活躍できる大きなフィールドがあります。未来のYSFHの核になる附属中生として、トライ&エラーを恐れず自分を高めていってほしいと思います」とお話しくださいました。

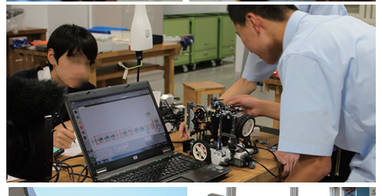
SSH・SGHで真の「サイエンス」を学ぶ

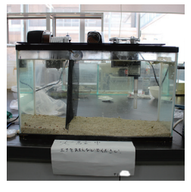
「ところで『サイエンス』は理系だけではないのですよ」と栗原校長。『サイエンス』は自然科学・社会科学・人文科学をすべて含んでいます」。

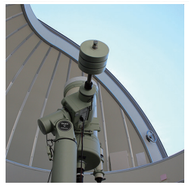
附属中の進学先となるYSFHは神奈川県内で唯一、SSH（※2）とSGH（※3）のダブル指定を受けている理数科の高校。最も特色ある教育活動が自然科学系の課題研究型授業SL（サイエンスリテラシー）。大学・企業・科学者の支援を受け、高2生全員が自らの研究テーマを英語でまとめ、マレーシア研修で研究発表を行うなど、その大きな成果が全国から注目されています。さらに「世界に視野を広げて学ばせたい」と、GS（グローバルスタディーズ）を開講。高2から社会科学系のSG（スーパーグローバル）ゼミを新設し、マレーシア熱帯雨林調査などアジアを中心としたグローバルソリューションの課題研究も推進しています。SGH指定以降の変化について校長先生は「明らかに世界の問題に興味関心のある入学者が増え、海外での特別プログラムへの応募も多くなりました」とその成果を実感されているとのこと。2つの指定でそれぞれに対する生徒の意欲も高まり、真の「サイエンス」を世界規模で学ぶ学校へとさらに進化しています。

（※1）DEEP学習。D：discussion 考察・討議　E：experiment 実験　E：experience 体験　P：presentation 発表 を取り入れた学習。

（※2）スーパーサイエンスハイスクール：平成22年度～26年度までの5年間、平成27年度～31年度までの5年間の指定　（※3）スーパーグローバルハイスクール：平成26年度より5年間の指定







tvkの取材は中1生の英語の授業に入りました。1クラスを2つに分けて20名ずつ。中学の先生とAETとのTT（チームティーチング）と高校の先生のオールイングリッシュの授業で構成され、複数の指導者から英語4技能をきちんと学ぶ独自のカリキュラムです。中1生は臆（おく）することなく身を乗り出してAETとのやりとりを楽しんでいる様子。高校の先生のスピーディーな発問にも、クラスメイトの力を借りながら一生懸命考えて英語でこたえていました。

続いて訪れたのは高1生のSL。1年次は先端科学5分野の研究の基礎学習や実験を行っています。この日は横浜市立大学の立川教授による「計算科学」の授業。分子シミュレーションソフトを使っての実験。教授と研究室の大学院生の説明のもと、生徒たちがPCを操作。隣同士たがいの画面を見て意見を交換しながら実験を進める様子が印象的でした。

きたれ未来のサイエンスエリート

取材の後半、附属中に来てほしい生徒像について校長代理の植松先生に伺ってみると「様々なことに興味を持ち、様々なことに挑戦する生徒ですね」。今年の中1生も自分で課題を見つけてどんどんチャレンジする生徒が多いそう。FTの自主的な活動が始まって2週間、校内には中1生の自主研究用の植木鉢や水槽が、高校生の研究資材の横に並びはじめていました。

「高校は理数科ではありますが、文系に進んで活躍する先輩もいます。中学生にはどんな分野でもいいので興味を持って本校で力をつけて、色々な方面にステップアップしてほしいと思います」と植松先生はおっしゃいました。さらに「何かに偏るのではなく、基本になる『言葉の力』『情報を読み解く力』『算数の力』など小学生の皆さんに幅広く勉強してきてほしい。適性検査にはそういうメッセージがこめられています」。

最後に。栗原校長に今後の展望をお伺いしたところ、YSFHこそ今度の大学入試改革で評価されなければならない学校である、と力強いお言葉をいただきました。さらに学校の設置目標について、「横浜サイエンスフロンティア高校・附属中の使命は一つ。未来の『サイエンスエリート』を育てることです」とし、『サイエンスの力』『言葉の力』を本校で身につけ、先端科学の知識・智恵を武器に、グローバルな場で協働して課題解決を図れる人材。そういう『サイエンスエリート』を6カ年の活動で育てます」と中高に一貫する理念をお話しくださいました。

「附属中は、YSFHをさらに飛躍させる生徒づくりを期待されています。中学生には、学びたい気持ちをどこまでも追求できる環境のなかでのびのびと思う存分勉強し、高校生との交流を通して大きく成長できる様々な機会を用意しています。安心して本校にきていただきたいと思います」。

今年を「第2章の幕開け」と位置づける横浜サイエンスフロンティア高校・附属中。今回の訪問で「驚きと感動」の第2章を垣間見ることができました。中萬学院グループでは今後も動向をお伝えしていきます。

横浜サイエンスフロンティア高校
YSFH
附属中学校
SGH

校長 栗原 峰夫先生

校長代理 植松 聡先生

学校説明会日程
小学生（主に6年生）とその保護者対象
参加にはホームページでの事前申込が必要です
7/29㊏ 関内ホール
7/30㊐ 本校（右の地図）
①9:45～10:45 ②11:45～12:45 ③13:45～14:45
蒼煌祭（文化祭）日程 予約不要
9/16㊏ 10:00～15:30
9/17㊐ 9:30～15:00
詳細は横浜サイエンスフロンティア高校附属中学校ホームページをご確認ください

学校へのaccess
JR鶴見線　鶴見小野駅　徒歩3分

横浜市鶴見区小野町6番地

CHUMAN 進学ナビステーション
tvk
8月11日㊎tvkにて放映予定
18時～18時30分のニュースハーバー番組内で今回の学校訪問の様子が放映されます！